

暑さ寒さも彼岸までの言葉通りに秋らしい気候となってきました。9月の連休はコロナの影響が色濃く残っておりますが、辛抱たまらないと大勢の人が行楽地に出かけ楽しめました。久しぶりに各地で渋滞が発生したとか。

歴代1位在任期間の安倍首相が病気で突然退任いたしました。その後を受けたのは安倍政権を支えた菅官房長官が自民党内の絶対多数の支持でもって総裁となり、内閣総理大臣に就任いたしました。菅政権の船出は実務家ぞろいの手堅い布陣で安心出来ます。少し心配なのが、取り巻きに新自由主義者が多いこと。

私は、「わが国は先進国であり、おおよそ何においても世界最高水準の国家だ」と思い込んでおりましたが、最近、時々「情けないな」と思うことがあります。

例えば、新型コロナウイルス対策でも、信じられないようなことがたくさんあります。都道府県などが集計しているコロナの感染者数は、保健所がファックスと電話で確認しているのだそうです。本当に、昭和時代に逆戻りしたのかと驚きましたよ。PCR検査も、中国は武漢の全住民990万人に実施して、19日間で終了したということです。1日に何と52万人です。一方わが国は、1日の検査能力が武漢の10分の1の最大70,186人(9月25日現在)です。

国民に対する特別定額給付金も、手書きで申請して、通帳のコピーなどを添付した上で郵送することが主流です。これも昭和の時代と何も変わっていません。

そういえば、民間人閣僚として経済財政担当大臣も務めたエコノミストの大田弘子さんが、国会で「日本は、もはや経済一流と呼ばれる状況ではなくなった」と発言したのは、2008年のことでした。当時は「えっ」という感覚でしたし、それだけにセンセーショナルでした。しかし、現実には前述の例に示されているように、全てにおいてわが国は二流国に成り下がっています。先進国ではなく、中進国ではないかと思えるほどです。何も自分の国を卑下しているのではなく、わが国、わが社会を憂え、鼓舞したいのです。

菅内閣がやるべきことは7年9カ月に及んだ安倍政権を継ぐもので、難題山積ですが、ぜひ国民の期待に応えていただきたいものです。まず何といたっても一番は、新型コロナウイルス対策です。第2波もようやく落ち着いてきているようですが、まだまだ安心できる状況ではありません。そうした中、経済もわずかずつ回復はしていますが、こちらも十分ではありません。4-6月の実質GDPが年率でマイナス28.1%という空前の落ち込みでした。実額を表す名目GDPは年換算で505兆円と、ピークから50兆円以上落ちました。

「Go To トラベル」により、各地のホテルも宿泊客が増えており、先の4連休も人出があったようですが、4-6月では、90%以上の落ち込みをした旅行業にとっては、まだまだです。飲食業やイベント業も大変な状況で、感染の状況と横にらみで「Go To イート」などの施策を機動的に展開する必要があります。

日本の名目GDPが505兆円と述べましたが、これはアベノミクスが本格的に動き出した2013年度の507兆円とほぼ同じです。この数字は1990年代と変わらないということです。この国は、ここ30年間ほど、経済成長から見放されているのです。景気回復を図るには消費税を0%にするべきです。